

令和3年度第2回学校関係者会議次第

令和4年3月8日(火)

10:30~11:30

- 1 校長あいさつ

- 2 令和3年度卒業生と令和4年度入学試験における受験者の状況について

- 3 学びの確保と感染予防の両立を目指した授業運営

- 4 意見交換

- 5 その他

(資料)

令和3年度第2回学校関係者会議出席者名簿

資料1 令和3年度卒業生と令和4年度入学試験における受験者の状況について

資料2 学びの確保と感染予防の両立を目指した授業運営

資料3 令和4年度からの教育内容について

令和3年度第2回学校関係者会議 議事録

R4.3.8 (火) 10:30~11:35
オンライン会議

1 令和3年度卒業生と令和4年度入学試験における受験者の状況について

Q A委員 オンライン授業を積極的に取入れ活用できていると思うが、オンデマンドでの授業も可能ではないか。

A 当方 授業では学生の反応を見ながら、双方向での確認が重要だと思っている。しかしながら、コロナ対応で休まざるを得ない学生もいることから、オンデマンドの検討も必要だと感じている。現在も講師の許可を得た上で、授業の録画を学生に見せることもある。

A委員 学校として、講師にどんなことをしてほしいかをもっと発信してほしい。

Q A委員 受験生の減少は深刻である。学校のホームページ等で、どのような学校なのかを知らせることが大切。従来の方法だけでなく、学生説明会をオンラインで実施する、スライドではなくビデオで見える化するなど、新しい取り組みが必要。今はどのような広報を行っているのか。

A 当方 高校への進路説明会は学校側からの依頼がないと実施できない。今後は、学校の進路担当と調整して、説明会の件数を増やしていく。
現在の広報としては、県ホームページに本校のホームページを作成し、学校の様子等写真を掲載している。

また、Web オープンスクールの動画をホームページに貼り付けており、視聴件数も増加している。

業者にも、資料請求につながるよう、本校の情報ページを掲載してもらっており、年間 300 件程度の資料請求があるが、県外からの請求が多く、受験にはつながっていない。

A委員 情報発信する媒体を工夫し、若い人が簡単にアクセスできるように。

2 学びの確保と感染予防の両立を目指した授業運営

Q B委員 臨地実習の中止により、学内演習に切り替えることは大変だったと思う。それに関連して、「資料2 4 実習（臨地・学内）の現状と課題」中、「実習の機会の公平性から・・・」の意味を教えてください。

A 当方 特に3年次では、7科目の実習をグループごとにバラバラに取り組んでいるので、年度当初に中止となった実習は、他のグループも含め全て学内演習に切り替える。グループによって、臨地実習、学内演習という差をつけないということ。

B委員 その対応はもったいない。実習に来てもらえる状態のときは、来てもらえばいい。今後もコロナ禍の前のような状態にはもどらない。実習が無理なときは無理、可能なときには実習に行き、学校に帰ってから共有すればよいのではないか。

今年の新卒者は、現場での対応が早かった。来年度の採用予定者も前向きに動こうとしており、実習の不足を現場で取り戻そうとしていると感じる。

当方 実習機会の公平性については、学内でもう一度検討したい。引き続き、実習病院の協力をお願いする。

学生には、コロナによるマイナスだけではなく、自分の足元をしっかり見ていくよう指導しており、その成果が少し見えはじめたように感じている。

C委員 オンライン授業に関してお願いがある。学生が教室で一斉にスクリーンに向かっていると、講師側から学生の様子が全くわからない。登校し、教室でオンライン授業を受けるとしても、学生がそれぞれ端末を持参し、顔をみせてもらえると授業がやりやすい。

当方 学生の移動時間短縮のため、自宅ではなく、校内でのオンライン授業となった。教室でのオンライン授業の際、各自の端末を用いる等方法を検討していく。

D委員 今年度は実習受入れができず、大変心苦しく思っている。さきほども話にでたが、実習に来れる状況の時は実習に来るというパターンを勧める。現場に行くことが重要だと思う。

1つ気になるのが、病院まで来ているのに、1人の学生の発熱により、全員が待機、その後全員で帰校したことがあり、残念に思った。

個人がしっかり体調管理し、実習に来れる人は来てほしい。

E委員 学生に実習の機会を提供できず、申し訳ない。今日の資料で、学内で工夫して演習されていることがよく分かった。B委員も言っておられたが、現場にいて思うのは、看護学校で「アセスメント」や「判断力」に力を入れてもらって、現場にでてもらえばいいと思っている。また、学内演習にも参加できればと考えている。

当方 学内演習での連携もよろしくお願ひしたい。

F委員 コロナ禍で工夫して指導してもらっていることがよく分かった。当院でも、できるだけ実習受入れ可能となるよう、取組んでいく。

G委員 医療機関も大変な時期に実習を受け入れていただき、感謝している。これからの状況も不透明であるが、引き続き、ご協力をお願いする。

令和3年度卒業生と令和4年度入学試験における受験者の状況について

1 卒業生（令和4年3月4日現在）

第一看護学科（3年課程） 58名（うち男性 10名）

第二看護学科（2年課程） 16名（うち男性 0名）

2 卒業生の進路状況（令和4年3月4日現在）

進路	地域	第一看護学科	第二看護学科	合計	全体に対する割合 (%)
就職	県北地域	26 (1)	6	32(1)	43.2
	その他県内	28 (8)	6	34(8)	45.9
	県外	1	3	4	5.4
	小計	55(9)	15 (0)	70(9)	94.5
進学	助産師課程	1	0	1	1.4
	保健師課程	0	0	0	0
	大学への編入学	0	0	0	0
その他	未定	2 (1)	1	3 (1)	4.1
	合計	58(10)	16 (0)	74(10)	—

() は男性

3 地域別就職状況

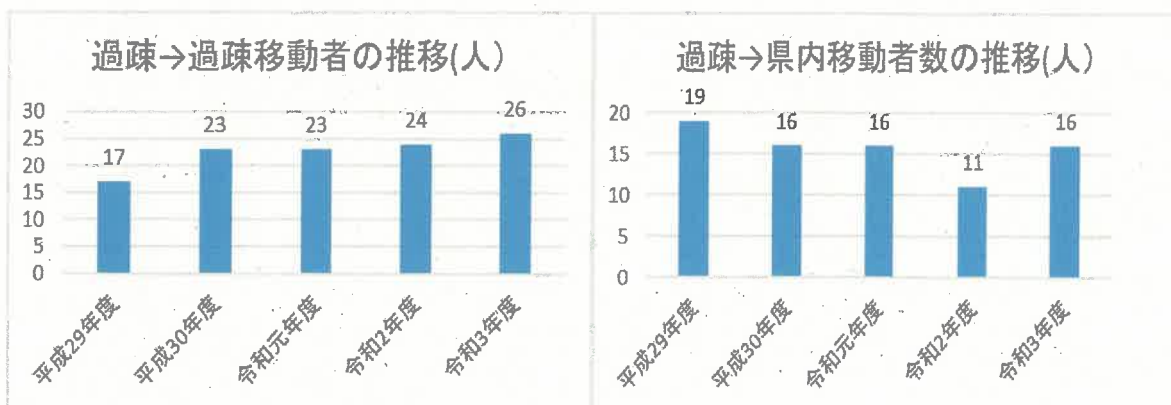
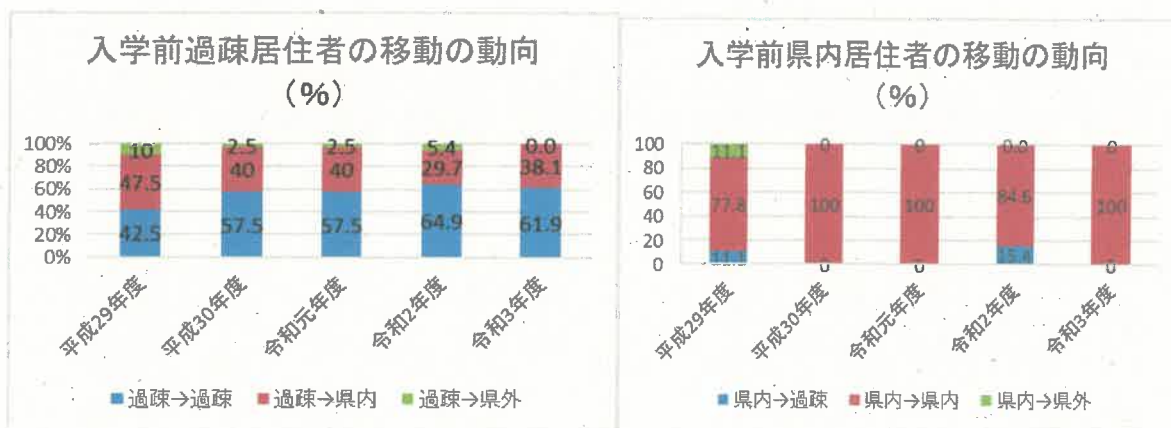
	地域	第一看護学科	第二看護学科	計
広島県	三次市	16	1	17
	庄原市	5	1	6
	安芸高田市	2	1	3
	その他県北過疎	3 (1)	3	6 (1)
	その他県内	28 (8)	6	34(8)
	小計	54 (9)	12(0)	66(9)
広島県外	中国5県	1	0	1
	〃 以外	0	3	3
	小計	1	3	4
	合計	55 (9)	15(0)	70(9)

4 入学前の居住地と卒業後の就業地域

(人)

入学前 居住地	卒業後 居住地	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
		第一	第二	第一	第二	第一	第二
過疎地域	過疎地域	26	3	24	1	23	4
	その他の県内	16	2	11	1	16	3
	県外	0	0	2	0	1	0
その他の 県内	過疎地域	0	3	3	6	0	3
	その他の県内	12	3	10	5	5	9
	県外	0	0	0	0	0	0
県外	過疎地域	0	0	0	1	2	0
	その他の県内	0	1	0	0	2	0
	県外	1	3	2	1	2	1
	合計	55	15	52	15	51	20

(第一看護学科)

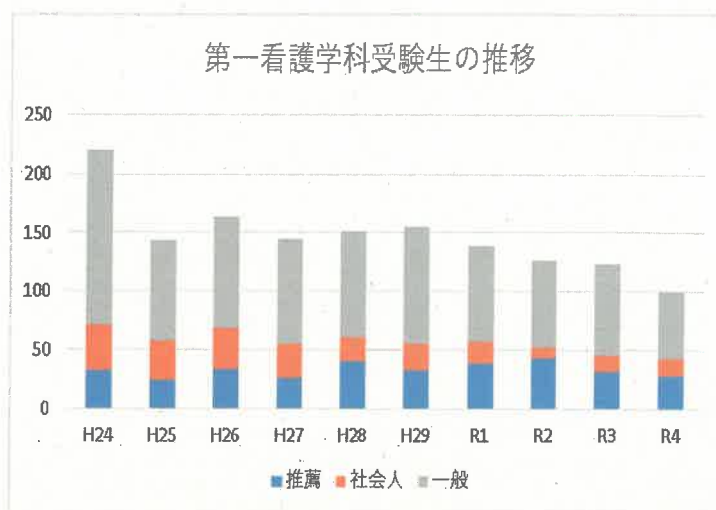


5 令和4年度広島県立三次看護専門学校入学試験 受験者の状況

(1) 第一看護学科

(令和4年2月25日現在)

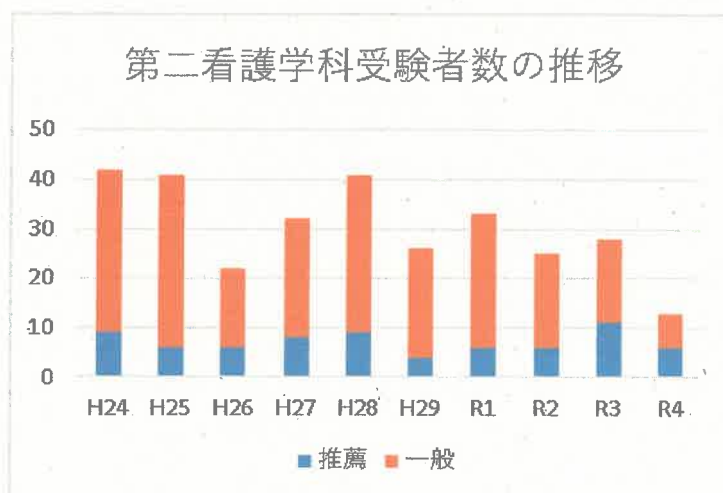
	推 薦	社会人	一 般	合計
令和2年	43	9	74	126
令和3年	31	15	77	123
令和4年	28	15	57	100



(2) 第二看護学科

(令和4年2月25日現在)

	推 薦	一 般	合計
令和2年	6	19	25
令和3年	11	17	28
令和4年	6	7	13



学びの確保と感染予防 の両立を目指した授業運営 令和3年度運営報告

令和3年度 第2回学校関係者会議

令和4年3月8日(火)10:30~11:30

概要

- 令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染状況レベルに応じた運営を行った。
- 感染予防を行いながら、可能な限り対面授業と臨地での実習が可能となるように施設と調整を行った。
- 授業方法としてのオンラインの活用は定着した。
- 感染症第4波第5波から再三実習計画を変更し、付随して時間割も変更して講義・実習を行った。柔軟に計画を変更する対応となった。
- 感染レベルから、臨地での実習が減少したため、看護実践力の育成に課題が残った。

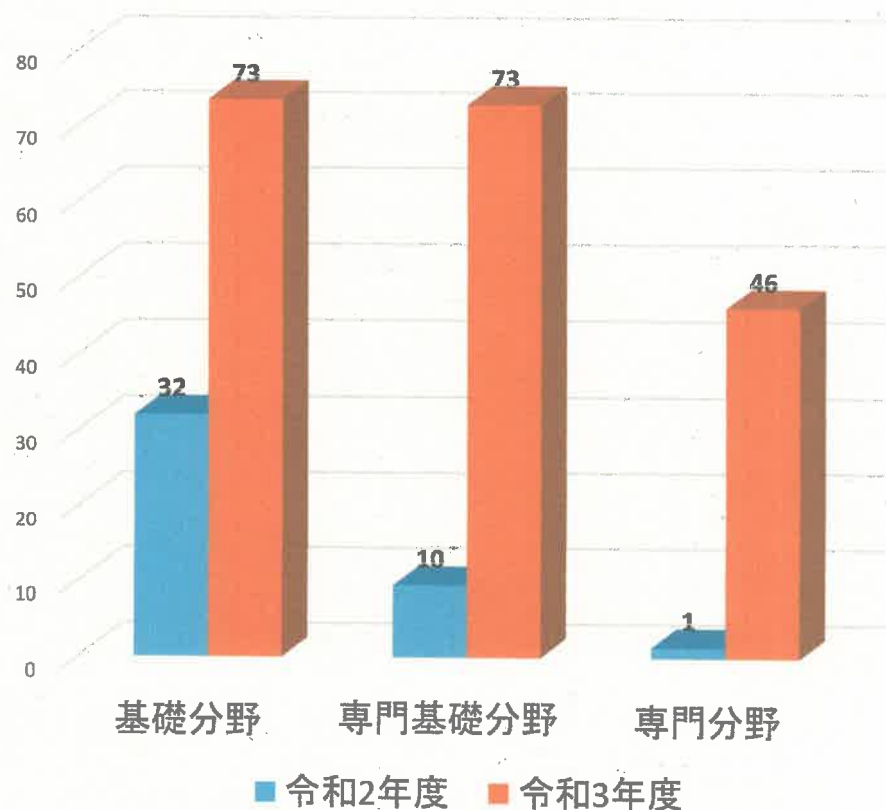
2 講義について

- 6月に校内全面Wi-Fi化。
- 感染レベルに応じて、学生の登校人員を半減するなど調整を行った。
- 対面講義を基本としながら、オンライン授業も併用して講義を行う。
- 学生の感染症者や濃厚接触者・接触者には、対面参加とオンライン参加の学生が混在するハイブリッド講義を行い学びが継続できるようにした。

(課題)

- オンラインでの効果的な教育方法の工夫(双方向の授業方法など)
- ICTに備えた教育技法の準備

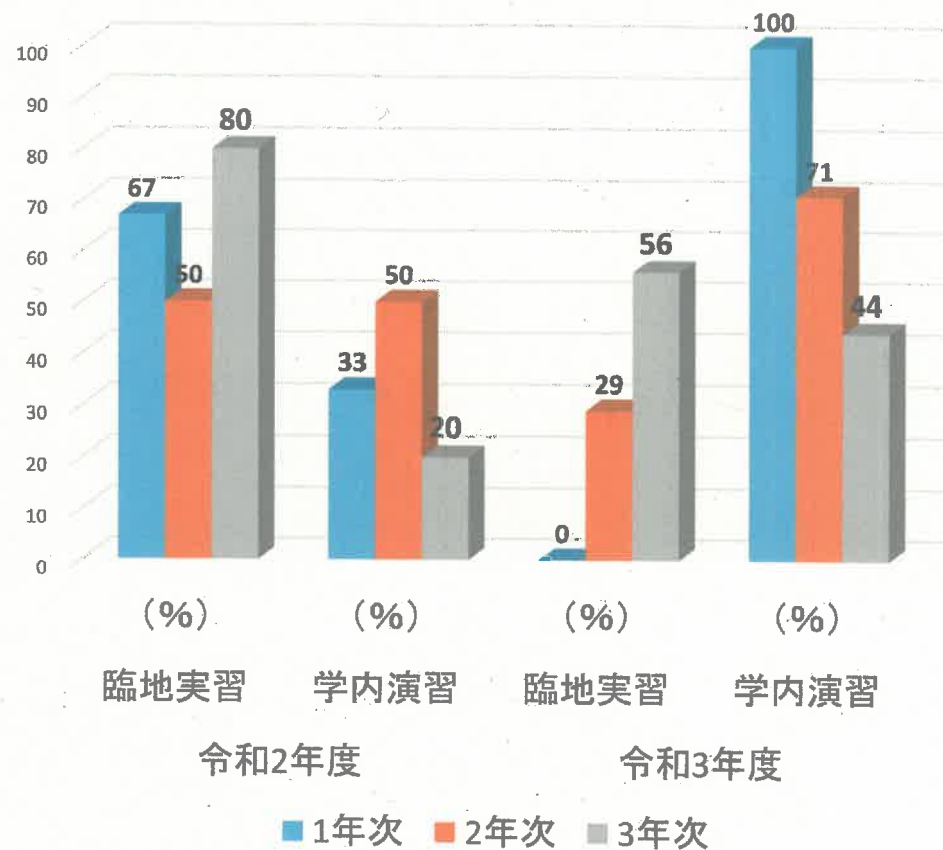
オンライン授業の割合(%)



3 臨地実習・学内実習

- 卒業年次の学生の実習を最優先し、感染レベルに応じて実習病院と実習受入の可否を相談のうえ実施した。
- できるだけ臨地実習が可能となるように施設と調整を行った。
- 実習計画は、第4波第5派では中止せざるを得ない状況となった。しかし実習計画と学内の時間割とを変更し、可能な限り臨地で実施した。
- 臨地実習が不可能な場合、学内実習に変更した。

臨地実習と学内実習の割合(第一看護学科)



4 実習(臨地・学内)の現状と課題

- 感染対策のため、実習1グループの学生数を7~10人から5人へ減少させた。そのため、実習グループ数が増加した。
- コロナ関連の医療体制上、県北の病院で実習できる病院・病棟が減少し実習場所を広域(県立広島病院、湯ヶ丘病院など)に拡大した。学生・教員とも遠距離での実習が生じている。
- 実習のグループ数や実習施設数が増えることから、実習施設への教員の配置(常時)が困難になることが予測される。
- 実習の機会の公平性から、年度初めのA実習のグループが臨地実習中止となると、その後計画されたA実習はすべて中止となる。実習の機会を確保するためには、実習全体の再計画を行う。
- 感染状況から度々実習計画を変更することから、安定した授業運営や実習運営の方向性が見通せない状況がある。

5 学内実習の現状

実習目標(ルーブリック)から、学習内容を精選した。

紙上患者の経過に沿った実習場面を設定した。

シュミレーション、ロールプレイング、講義での補足や学生の思考の整理の時間を確保するなど、学内演習の強みを生かして実施。

例:成人看護学実習(回復期)学内演習
急性心筋梗塞のPCI治療後3日～退院までの看護を学内で実習した

	項目	内容
1日目	患者との出会い	・PCI 2日目の患者の動画を視聴 ・病態や治療の理解の自己学習
2日目	検温の実施(PCI 2日目)	・検温場面の実施と振り返り
3日目	検温の実施(PCI 3日目)	・PCI検温の実施、評価
4日目	思考の整理	・病態分析や未充足なニードの分析
5日目	日常生活拡大への実践と評価①	・トイレ歩行負荷試験の実施と振り返り
6日目	中間評価	・思考の整理、オンラインでの面接
7日目	カンファレンス	・テーマ「A氏の心負荷に係る生活とは何か」
8日目	日常生活拡大への実践と評価②	・初めての入浴の援助
9日目	カンファレンス	・テーマ「退院指導に向けた情報収集とは」
10日目	グループで実践	・退院指導に向けた情報収集
11日目	日常生活拡大への実践と評価②	・退院指導の実施と振り返り
12日目	まとめ発表	・対象理解から看護実践、回復期の看護師の役割についての学びをディスカッション

6 学内実習の課題

- 実習が学内で効果的に行えるための教育方法の工夫

例：模擬患者の登用，

状況の変化に気づき，対処するための教材の工夫

- 本物・現場を見ることができる工夫

例：症状の観察にしても，色や温度の変化は見せにくい

臨床との連携で解決が可能か？（通信機器等の駆使）

- 看護技術の経験や自信度が乏しい。日常生活援助を含めた，技術獲得のための指導方法の見直しが必要。

7 コロナ禍の継続が学生に与えている影響

- 世帯の収入減, バイト収入減による学費や生活費不足
- 学習に関する不安感, 実習を経験していない卒業後の不安など
- オンライン講義の継続のため, 登校回数の減少。学生間の交流は乏しく, 人間関係や社会性を育くむ機会が削がれている。

(取組み)

- 日本学生支援機構による高等教育無償化制度による奨学金(給付・貸与), 学生等の学びを継続する給付金
- 自治体や医療機関が実施している奨学金の紹介
- 授業料減免制度, 家賃減免制度(県制度)等の周知, 実施
- 感染予防をしたうえでの学生間の交流機会の企画実施